

## 「自治力UP」推進協議会専門部会 会議録（第4回）

- 1 日時 平成20年6月30日（月） 午後3時30分～午後5時30分
- 2 場所 板橋区役所本庁舎新館11階 第二委員会室
- 3 出席者
  - (1) 「自治力UP」推進協議会専門部会委員（敬称略）  
中村年春（会長）、飯塚法道、小宮功、櫻井松勇、高橋秀幸、田中正樹、  
田中將浩、中田敏男、新妻康宏、堀口吉四孝、山口邦代  
（欠席）蓮沼浩子
  - (2) 区側出席者  
政策経営部長、政策企画課長、政策企画担当係長2人、その他事務局職員2人
- 4 内容
  - (1) 開会
  - (2) 報告事項  
「自治力UP」推進協議会（第3回）の検討内容について
  - (3) 議題「元気なまちづくり」の協働領域における課題の整理  
商業・工業・農業の分野における地域団体等との協働について  
その他
  - (4) 閉会
- 5 会議録
  - (1) 開会  
政策企画課長 ただ今から、第4回「自治力UP」推進協議会専門部会を開催いたします。まず、中村会長からご挨拶をお願いいたします。  
会長 本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。この専門部会も第4回目ということで、佳境に入ってまいりましたが、本日は、「元気なまちづくり」の協働領域における課題の整理ということで、特に産業の分野について、忌憚のないご意見をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。  
政策企画課長 ありがとうございます。本日は、蓮沼委員が欠席でございます。また、公募の方2名が傍聴されておりますので、ご了承ください。  
審議に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。  
- 資料確認 -  
それでは、中村会長、審議をよろしくをお願いいたします。

## ( 2 ) 報告事項

会長 前回の開催から2か月が経ちましたが、この間、先月27日に、この専門部会の親会である「自治力UP」推進協議会が開催されました。そこで、我々が今まで議論してきた「安心・安全」「あたたかい人づくり」の協働領域における課題について、事務局が整理をして報告しております。親会では、その報告を受けて、今後の解決の方向性について議論されたと伺っておりますので、本日は、まずその内容について報告をいただきたいと思います。では、事務局からお願いいたします。

政策企画担当係長 - 「自治力UP」推進協議会での検討内容を報告 -

会長 ただいまの報告内容について、ご質問等があればお願いします。

- 特になし -

また後でも結構ですので、何かありましたら、ご質問・ご意見をお願いします。それでは、本日の議題に移りたいと思います。

## ( 3 ) 議題

会長 それでは、本日の議題は、「元気なまちづくり」の協働領域における課題の整理ということで、商業・工業・農業の分野における地域団体等との協働に関する課題を出していただきたいと思っております。まずは、事務局から資料の説明をお願いします。

政策企画担当係長 - 資料説明 -

会長 事務局から説明がありましたが、板橋区は工業が発展しておりますので、工場・企業と地域で活動する団体等との協働を、今後どのように図っていくかということが一つあると思います。また、商業につきましても、商店会への加入率は9割近く、チェーン店についても若干加入率は低いものの結構加入しているということで、地域のコミュニティの中核としての力は持っているのではないかと思います。農業については、23区の中でも板橋区は農地が多い方だと思いますので、今後農業分野と地域との連携が益々必要になってくると思います。これらの工業・商業・農業の各分野において地域との連携が図られるようになると、「自治力」がアップしていくのだろうと思います。ただいまの事務局からの説明について、各分野で活躍されておられる委員の方、補足がありましたらどうぞ。

飯塚委員 商店会の加入率についてですが、スナックなどの飲食店の加入率が低くなっておりまして、それ以外の商店につきましても、ほとんど加入していただいているという状況でございます。

新妻委員 私は印刷業でございますが、外から中が見えるショップ型の印刷業は比較的最近のこととして、外からは中で何をやっているのかわからない工場型が従来からの特徴でございます。板橋区はものづくりのまちとして、その中心で活動しているのが産業連合会です。戦後は特に工業が盛んでしたが、高度経済成長期以降、居住形態が変化し、マンションなどの集合住宅が増えて、工場の区外転出が増えております。今後は、企業が防災・防犯などの面で、地域とどのように協調していけるかということが課題だと思っております。町会や商店街と連携す

ることによって地域住民とふれあいの機会を持ち、災害時には企業の敷地を一時避難場所として提供するといったことが考えられるとっております。

会長 地域コミュニティの中核としての商店街の力が、従来に比べると薄らいできているといったことはありませんか。

飯塚委員 商店街は、ペットボトルの回収など様々な環境問題に取り組んでいます。以前は営利目的と誤解されることがありましたが、今ではそういうこともなく、学校とも連携しておりますし、地域の様々なイベントに参加しております。

田中(将)委員 農地は毎年1haずつ減ってきております。区内の生産緑地は10haぐらいあるのですが、税金の問題や面積要件が厳しく、なかなか生産緑地が増えません。相続の問題も大きく、農地減少の要因になっています。農家の高齢化は、定年退職後農業を始める方が多いので、今後も当分は高齢化の傾向が続くと思います。先日、農業委員会で板橋区の農業の課題について、次の四つに整理いたしました。一つ目は「農地の保全」です。二つ目は「担い手の高齢化と後継者の育成」でして、魅力ある農業とするため、今年度は東京都の補助事業で、ビニールハウスを5棟着工する予定です。三つ目は「企業的農業経営の導入」です。ビニールハウスとか観光農園など推進し、今までの路地野菜では生産に見合う収入は得られないということですので、これを変えていきたいと考えております。最後は、「コミュニティと農のあるまちづくり」でして、ふれあい農園の活発化や区民農園でより多くの区民の方に農業にふれていただく方策などを、今後検討していきたいと考えております。

会長 農地の周辺に集合住宅ができてきていると思いますが、農業に対する理解を得るための苦勞などがあるのではないのでしょうか。

田中(将)委員 農薬散布には気をつけておりますので、今までのところ特に問題が起きたということは聞いておりません。

会長 地方の農家では、近隣の集合住宅の住人が夜間にゴミを捨てていくといった問題があるように聞いています。

田中(将)委員 農地の見回りをやっておりますし、農業委員会の方で指導も行っております。

会長 皆様のお手元に、ジョブ・シャドウ・デイに関する新聞記事があると思いますが、堀口委員が書かれたものです。堀口委員からご紹介いただけますか。

堀口委員 ジョブ・シャドウ・デイということを知ったのは、アメリカの高校生がいわゆるドロップアウトしていたことがきっかけだったそうです。10年近く前に、リクルートという会社がジョブ・シャドウ・デイを研修に取り入れていまして、それを板橋版でやってみたいと思い、「ものづくり21フォーラム」で始めてみました。工場は、外から見ると何をつくっているかわからない、工場であるというだけで地域と融合していないという時代がありました。しかし、先ほど事務局の説明にもありましたとおり、板橋区の工場はとても優秀でして、生産管理面でもそうですし、公害の問題などありませんし、これを教育の現場に生かせれば、工業の後継者問題だけでなく、もっと大きく社会の役に立つと考えました。専修大学の先生が、大山の商店街に入って地域の中学生と一緒に研究をして

いる例もあります。こういったことは、やろうと思えばすぐできることだと思いますので、商店街と学校、工場が連携すれば、きっとおもしろいことが起きるのではないかと思いますし、それは連携のあり方にかかっていると思っています。モノ、人、機会、場所をお互いに提供できるかどうか、実現すれば、板橋が活性化されると考えております。

会長 複合的、あるいは重層的と言いますか、商店街・企業、これに農業が入ってくれば、新しい協働の仕組みができると思います。学校や地域の団体もそこに加われば、23区でもかなり特徴的なものになるのではないのでしょうか。

小宮委員 青少年健全育成と農業とのかかわりでは、バスハイクで芋掘りなどの農業体験を行っています。福島県までバスで行って、田植えをする地区もあります。青少年健全育成事業では、区内の商店街・工場・農家と一緒に何かをやるということは、今まであまりないように思います。

櫻井委員 徳丸地区には大きな工場がありませんので、地域と工場との連携をどうやっていくかという問題はありません。しかし、災害時のことを考えますと、工場の従業員は、その地域に住んでいない場合が多いと思いますので、地域の防災訓練には、工場の従業員にも参加していただいて、一緒に訓練していかねばならないと強く感じています。

新妻委員 今まで、工場と町会はあまり連携してこなかったと思います。今後は、協力していかねばなりませんし、それが「元気なまちづくり」の第一歩ではないのでしょうか。

櫻井委員 町会で工場見学などやったらどうでしょうか。

新妻委員 小学生・中学生の工場見学は、結構受け入れています。

櫻井委員 工場や商店街と地域との交流をもっとしていかねばならない時期が来ているのだと思います。

新妻委員 そのとおりだと思います。

中田委員 小学生・中学生は、結構工場見学をしています。しかし、大人にその経験がありません。印刷工場では、どういうことをやっているのか知らない大人が多いと思います。町会が工場見学をしたいといったときに、工場側にそれを受け入れる体制があるかどうか、それがあれば交流できると思います。

会長 企業の社会的責任、CSRと言われますが、規模の大きい会社は、そういうことをきちんとやっています。また、山梨県では、産業観光をやっていて、観光ルートができているという事例があります。

政策企画担当係長 板橋区では、産業連合会と一緒に、産業見本市というイベントをやっております。その中で、日本金属という大企業の工場見学会を区民公募で実施したことがあります。また、小学生・中学生の工場見学は、最近多くなってきておまして、多くの工場は、地域と交流したいと思っているということだと思います。

高橋委員 子どもの工場見学は、学校主導で行っております。先生が見学先を探しているのが現状だと思います。産業連合会が、見学できる工場を学校や町会にオープンにしていただけると、もっと交流が活発になるのではないかと思います。

した。また、PTAは、地域のまつりで商店街とは交流がありますが、今後は何か新しい切り口で交流をしていかないと、自治力はアップしていかないと感じました。

新妻委員 町会連合会が、この「元気なまちづくり」を大義名分にして、産業連合会に働きかけをして、町会に企業を入れてほしいと思います。

中田委員 毎月1回、町会連合会の支部長会がありますので、そこに産業連合会も参加していただけるように、地域振興課に話をすれば可能だとは思いますが。

飯塚委員 商店街と企業の連携が少ないと言われますが、前野町では、タニタさんが地域と一体となって、まつりをやっています。そういった地域の成功事例を積み上げていけばよいかと思います。

新妻委員 地域でモノを売っていない企業・工場と地域との連携が今後大切だと思います。

飯塚委員 新しい動きが多少出てきております。先ほどの堀口委員のお話を伺って、NPOの方の発想は、なるほどと感心いたしました。最近では、埼玉県がセブン・イレブンと包括協定を締結したということがニュースになりました。先日、商店街の後継者育成セミナーに参加したところ、板橋区でもコンビニと提携をということで、講師の方が資料を持ってきておりました。我々の住むすぐ近くに、地域の中に溶け込んでいる注目すべきコンビニがあったのだと考えさせられました。コンビニには若い人が沢山いらっしゃいますので、商店街でもこれからコンビニに注目して考えていきたいと思います。

会長 コンビニ業界との震災時における協定は今までもあったと思いますが、今回の埼玉県とセブン・イレブンの例は、地産地消とか様々な分野で包括的に協定を結んでいますので、他の自治体・業界に与える影響は大変大きいと思います。

山口委員 私は、農家がまわりにあるところに住んでおりますので、商店街や工業とあまり関係ないのですが、最近、農地だった土地に老人ホームができたりして、今後農業はどうなっていくのだろうかと心配です。固定資産税や相続税が負担となり、農地を病院などに貸したり、売却したりする方が増えているように聞いています。

会長 皆様のお手元に「地区コミュニティ会議のあらまし」という資料があると思います。総務省に知り合いがいて、先日会った折、この資料をいただきました。総務省では、医療や福祉・農業など様々な分野でコミュニティを再生しなければならないと考えておられて、コミュニティ活動を推進するため、法案作成にとりかかっているそうです。この資料は豊田市の例ですが、ある種成功事例と言えらると思います。豊田市の住民は、トヨタ自動車関連の企業に何らかのかかわりがある人が多いという特徴がありますので、トヨタ自動車は環境問題など色々なことに取り組んでおりますけれども、会社が意識的に地域づくりにかかわっているわけではないそうです。板橋区でいうところの「町会」を、豊田市では「自治区」と呼んでおられて、中学校区を一つの単位としています。それぞれの自治区に500万円を上限とする予算を計上しており、各自治区が抱えている課題に対して事業提案をもとに、事業費を付ける方式を採用しているそうです。今後、

板橋区における協働の仕組みづくりを考えていく際の参考になるのではないかと思います。

それでは、時間がまだ多少ありますので、他に何かありましたらどうぞ。

田中（正）委員 板橋区の工業が23区で2位というのは知りませんでした。工業が盛んなことは結構ですが、一方で、温暖化対策はどういう取り組みをしているのでしょうか。また、地震などの災害時にはどういう対策を考えておられるのか、住民として気になるところです。工業団地の場合と、住宅地内の工場とでは少し違うと思いますが。

新妻委員 温暖化対策については、大きなことは言えませんが、業界単位で、できることからやっているというのが現状です。お金がかかることですし、行政の協力も必要です。防災対策については、町会や商店街と日常的につながりをもって、自治意識を高めていくことが必要だと思っています。そうすれば、災害時に工場の敷地を避難場所として提供するなどの対策もとれると思います。地域と日ごろからつながっていれば、温暖化対策も防災対策も解決できるのではないのでしょうか。

会長 地域と工場の連携については、地域の側から工場の敷地に入っていくことは難しいでしょうから、工場側から働きかけが必要だと思っています。

堀口委員 皆さんがそれぞれの分野でこれだけ頑張っているということは、本当に頼もしいと思います。それらを組み合わせる仕組みがあると、「自治力UP」をベースにした「元気あるいたばし」に、すぐにでもなるのではないかと楽観的に思っています。先ほどお話ししたジョブ・シャドウ・デイの工場の経営者は、自分の息子を後継者にしたくなかったようなのですが、その子はジョブ・シャドウ・デイを体験して、工業高校に進学したいと言って、実際に今工業高校に通っているそうです。その子はとても優秀だそうで、その子が通う工業高校にも今変化をもたらしているとのこと。こういったことが、お菓子づくりや農業の現場でも起こってほしいと思います。ペットボトルのキャップの回収についても、それをくっつける接着剤が発明された途端、学校がアートに活用しようと動き始めています。ものづくりの人たちが技術を提供し、ちょっとした連携でおもしろいことが起きる、そういった場づくりがあれば、もっと色々な可能性が広がるのではないかと思います。

会長 場づくりをしてもらった後に、各団体等が元気に活動していくということが「自治力UP」につながるということでしょうか。

それでは、時間も迫ってまいりましたが、事務局から何かありましたらお願いします。

政策企画課長 次回の専門部会ですが、すでに日程調整にご協力をいただきまして、8月12日の午後3時から、区役所本庁舎9階にあります大会議室Aというところで開催を予定しております。予定では、次回で最後の専門部会ということになっておりまして、今までに出された課題等を事務局が整理いたしまして、親会であります「自治力UP」推進協議会へ報告する内容を最終確認していただきたいと考えております。課題を整理するにあたりましては、次回開催まで1か月

ほどありますので、整理した内容を事前に各委員にご確認いただき、ご意見を伺いたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(4) 閉会

会長　それでは、本日の専門部会は、これで閉会いたします。ありがとうございました。

板橋区政策経営部政策企画課  
電話 03-3579-2013